

# なむ

## お精靈さま

住職 小野崎秀通



古来「お盆には地獄の釜の蓋もあく」と言われ、ご先祖様方が里帰りをなされます。その御先祖様をお迎えし、孝養を尽くして靈力を増していただき、そのお力を戴こうというのが、精靈祭り、盆祀りです。

十三日夕刻、お墓へ行き松明（おがら）を焚いてご先祖様をお迎えし、その火で提灯に明かりをつけ、ご先祖様を道案内して懷かしの我が家にお連れ致します。ナス、キュウリの馬は荷物持ち、お団子はお弁当です。

門口でもう一度松明を焚き座敷へお招きし、三日間に渡つて、茶菓子、飲食を供え、読経供養を申し上げます。十五日午後から十六日にかけて、十三日の逆の手順でお墓へお送り申し上げます。お盆中は子供達にもお手伝いしてもらいますが、お墓掃除、精靈棚作りあるいはナスやキュウリの馬づくり、団子やおはぎづくり、お供物作りやおやつの上げ下げと大活躍です。こうしたお手伝いを通して家族の絆を深め、親孝行を学び、御先祖様の事を意識していきます。また成長してからの懐かしい思い出を作ることにも繋がります。そして一家一族の結びつきを再確認し、先祖の恩を感じ孝養を尽くす中で心の安らぎを得て行きたいものです。

**大施餓鬼会（大施食会）**

八月十七日（月）

|          |     |
|----------|-----|
| 午前十時三十分～ | 食供養 |
| 午前十一時三十分 | 講演  |
| 午前十二時三十分 | 法要  |

各家のご供養の申込みをお待ちしています。

※講師として東北大大学国際交流センター講師並びに留学生参加

## 第4号

2009年8月1日  
発行所  
輝寶山 洞源院  
電話 0225-24-1389  
〒986-2135  
石巻市渡波字仁田山2  
<http://www15.ocn.ne.jp/~dougenin/>

## 盆幡・五如来様の願い

宝勝如来…物を惜しみ、欲深い心を持たない福德円満なお姿の仏さま

妙色身如来

..貪りの心からくる醜い形相をした餓鬼の姿を打ち破り、相好円満なお姿の仏さま。

甘露王如来

..甘露の飲食は餓鬼を満足させてくれ、極楽浄土へと導いてくれる仏さま。

広博身如来

..餓鬼の咽喉を広げ、甘露の美味を得させようとする仏さま。

離怖畏如来

..苦痛と恐怖を取り除き、安らぎを与える慈悲の仏さま。

ま。

いずれも五色の幡の五如来様は餓鬼の心から離れられる願いが込められています。この五如来幡を精靈棚又は仮壇にまつり、十七日寺詣りの時、納めて下さい。

## 鐘洞塔が完成



一面觀音立像がある永代供養墓の前に石の鐘洞塔が完成、石は山門前の階段と同じ福島川俣産の白御影石、鐘は洞源院が山居の地にあったときからの古いもので。

製作は草木塔の文字を彫った高家理さん（石の地蔵さまを彫る会の講師）で石本来の良さを表すのにあえてあまり手を加えなかつたそうです。鐘洞塔はこの辺ではあまり見ることはないのですが山形にはよくあるそうです。六月に洞源院研修旅行で行つた直江兼続夫妻の墓がある上杉家菩提寺の林泉寺にもありました。

この鐘はお参りする際に「お参りに来ました。これからお参ります」と知らせるように鳴らして下さい。

各家のお墓参りに来られた際には十面觀音様をお参りいただけます」とお団子をお撞き下さい。

各家のお墓参りに来られた際には十面觀音様をお参りいただけます」とお団子をお撞き下さい。

# 毘沙門天（本尊脇像）



本来、仏教やその信者を仮敵から守る神、四天王の一つ、北方を守護する多聞天と同一で単独では毘沙門天と呼称される。山門には四天王像として祀られている。

尊像は神王の姿で邪鬼を足下に踏みつけ、左手に宝塔を持ち、右手に宝棒を持つている。また福德をさすける神として七福神の一つにもなっている。

邪鬼は仏教や信者に害を及ぼす反逆者をあらわし、他人の心中を察したり、口まねや物まねをするところから山びこの名にもなっている。正論に抵抗し、屁理屈を述べ、口答えするものを足下に踏みつけてこらしめる様子をあらわしている。悪い事をしたものの当然の報いということであろうか。しかしながら、邪鬼が改心して背中に乗せていく姿勢だともいわれる。いずれにしても世の中には欲求不満の口を求めて反抗したり、

嫌がらせをしたり、ひねくれたりする者も多い。いわば邪鬼的性格の持ち主のいることを物語つてゐる。

日本で毘沙門天の信仰は古く、千四百年のその昔、聖徳太子は物部氏討伐の折、毘沙門天に祈願して勝利したと伝えられたところから、やがて足利尊氏、楠木正成、上杉謙信など多くの武将たちが毘沙門天を守り本尊としてきた。また、インドでは元々財宝福德の神であったので、この神を信すれば、財宝富貴自在の福利を得るということから七福神の仲間となつたものと思われる。

当山の本尊は聖観世音菩薩・毘沙門天・不動明王の三尊で、鎌倉時代初期のものとされている。この祀り方は天台系の様式とされているところから、当時天台宗であつたと思われる。のちに旧跡山居には真言宗の住職名で供養碑が建立されていることから、現在の曹洞宗に改宗する前は真言宗であったことが伺える。次回は不動明王を紹介する予定です。



伊達家に伝わったとされる  
毘沙門天（鈴木家寄進）

## 阿部あや子さん

おめでとうございます  
第七十三回河北美術展入賞

日本画 東北電力賞



「12月の窓」

## 日常の仏教語

### 「阿吽（あうん）」

山門の仁王様は一方が口を開いて「ア」と、他方は口を閉じて「ウン」と阿吽の姿をしています。阿吽の呼吸とは二人以上の者が何かをするときの、お互いの微妙な調子や気持ちが一致することを言います。しかし本来は物事の始めと終わりを表わす言葉。

インドの文字である梵語の初めは「あ」と言つて口を大きく開いて発音する言葉でこれが「阿」と訳され、一番最後にある「ふーん」と口を閉じて発音する言葉が「吽」と訳されたことに由来する。

窓辺の冬枯れした草花は弱々しさがなく、色調、構成で審査員の高い評価を得ています。

写真は石巻八幡町のアートギャラリー「川辺りの散歩道」で六月十三日から始まつた石巻地区作品展の初日に、作品の前でご主人の澄夫さん（洞源院護持会役員）と大好きなお孫さんと一緒に撮つた写真です。

「絵を描くのが好きでカルチャースクール等で勉強、親の介護で中断した時期もあつたのですが、再開し、入選が五回、今回が初の入賞です。」とのことでした。



# 洞源院開創九五〇年の事

旧跡山居に寺が建立されたのが、康平四年（西暦一〇六一）と古い過去帳の覚書に記されている。その時この地が岩手内陸をも含めて陸奥の国と云われていたころ、安倍頼時その子貞任・宗任等が反乱を起こし、源頼義は朝廷から陸奥の守に任せられ、その子義家と共に出羽の守清原武則等の加勢を得て鎮定する。これが「前九年の役」と称される。この間九年もの歳月を要したため、多数の戦死者が出た。源義家軍は源頼義軍と別れ、初めは牡鹿沿岸の地から討伐しようと京ヶ森に交戦し、山居に陣取ったと考えられる。なぜなら山居の北隣の峰を「八幡公峰」（八幡太郎源義家公）と称され、今まで陣中見張り山と伝えられてきた。やがて北上川を北上し岩手衣川に至つて安倍一族は終焉を迎えることとなる。

義家は敵味方の和睦を図り、恩讐を越え、その戦死者の怨念を鎮魂供養するため、家臣数名に託して、自分の守り本尊「聖觀世音菩薩像」（文化財）を奉安し、領民

安泰を願つて一字を建立させたのが、康平四年というのである。あと二年の平成二十三年で丁度九五〇年を迎える事となる。

この九五〇年を私たち先祖にしてみると一代三十年として三十二代も遡つた時代となる。父母二人、祖父母代四人、祖々父母代八人・・・三十二代で八十五億八千九百九十三万四千五百九十二人と沢山の先祖と連なる歴史の重荷を感じざるを得ません。

この間、私たちの先祖一人が欠けても自分の存在はありません。この間、私たちの先祖は、自分にこの命を繋ぎ続けてくれるため、多くの苦悩を乗り越え、それぞれの時代に様々な人間模様を経験して、今日に命のバトンを引き継いで来たことになります。そしてまた多くのご先祖様が折りに触れ、菩提寺として、時には祈願所とし、時には菩提弔う所となし、時には魂の安らぎの場として信心を深めて來たこととであります。

## 記念事業について

### 一、報恩法要

開創以来、守り続けてこられたご本尊への畏敬の念を込め、開山歴住様や御先祖様への感謝報恩の法要。

### 二、檀信徒誓願会

迷い、悩み、苦しみの多い世にあつて、お釈迦さまが教え示される生き方に目覚め、限りある命の中で、み仏との絆を大切にする内容の誓願会です。

### 三、講座開設

正しい信仰、正しい生活を促す法話、生活の知恵となる文化講演、伝統文化、音楽などおよそとの絆を誓い、次の時代に受け継げる祭典を計画中です。どのようにが出来るか、平成十九年に「洞源院開創九五〇年記念事業準備委員会」を設け、検討してまいりました。

彼岸中の三日間に開催を予定。

参加者が三日間に亘つて参加することが望ましいが、諸々の

そして、この度、護持会役員会総会に諮り、実施することが決定されましたので、二年後を目指して「洞源院開創九五〇年記念事業委員会」を立ち上げました。内容、予算等これから「実行委員会」にて煮詰めてまいりますが、檀信徒総参加による記念事業と致したいと存じますので、何とぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 五、記念誌発行

開基「源義家公」の紹介、洞源院沿革、仏事情報、檀信徒便利帳など五〇頁程度。

### 六、事業費協力

事業費については事業内容を具体的に進め、今年中に計画を立てますので、実施時には奉賛金のご協力をお願い致します。

以上二年後の記念事業ですが、すでにこの寺報も事業の一環としてスタートしており年三度の予定で発行されますので、今後ご覧いただきながらご支援くださいますようお願い致します。

洞源院住職 小野崎秀通  
護持会会长 志摩源一  
実行委員長 仁杉円一郎  
役員一同



## 活動報告

平成二十一年五月～七月  
教区梅花講大会

華夕美にて開催

四月二十九日（水）



|       |          |       |
|-------|----------|-------|
| 地藏石彫り | 五月六日（水）  | 参加十九名 |
| 研修旅行会 | 七月二十日（月） | 参加三十名 |
| 役員総会  | 五月九日（土）  |       |

東北大留学生来院（2度目）  
五月十日（日）



本文化講座を受講する十一  
カ国三十四名が仏教と地場  
産業牡蠣養殖の歴史を学び、  
焼き牡蠣を堪能した。

## 第六回仏の教えを聞く会

## 花まつりと法話

五月十六日（日）  
研修旅行会（参加二十八名）

米沢市林泉寺参拝

六月十四～十五日



十三教区本山特派布教  
七月二日（木）

会場宮殿寺、参加十六名  
万石浦小学校音楽部合宿  
七月二十九～三十日

## タイの僧侶二名来院



住職が三十六年前にタイの寺院ワント・パクナムで修行した際に知り合い、今でも交流のあるチヤイ・キティサロさん（六十歳）がプラ・ポーセツプ（三十七歳）を伴って五月十七日夜に洞源院を訪れ一泊。一人の僧侶は全国のお寺を回ってタイの赤十字社を通じて移動献血車を送るための募金活動をしている。翌日に寄付金の贈呈式があり住職、ちえぶくろの会（佐々木力会長）、梅花講（阿部美代子代表）、仏の教えを聞く会（菅井幸子事務局長）のそれぞれが寄付をした。佐々木会長が代表で「困っている人のために役立てて欲しいと話すと、キティサロさんが日本語で「寄付は本当にありがたい、感謝する」とお礼

六月五日午後六時、初めて洞源院寺報担当者会に出席した。内心戸惑いながらの参加だったが、三々五々集まって来られた方々の笑顔に、何とも言えない安堵の胸をなでおろすことができた。

第四号の発行準備会は、担当の面々が揃ったところで開催となり和気藹藹な中にもそれぞれの意見が飛び交い、掲載内容や取材担当が決定し、円滑な運営の下に閉会となつた。過去の寺報発行の際やその他の行事でも、世話役さんはこのように頑張つておられたのだということを痛感するに至り「感謝」の二字が脳裏に浮かんだ。

お寺で催された各種の行事には数回の参加経験しかないが、いずれの企画にも生涯学習の要素がたっぷりと含まれていて参加する度に、心穏やかな状態に浸ることができた。

これから繰り広げられる様々なイベントにも期待しなら、機会があれば自分自身も何らかの形で、徐々にお手伝いしたい、との思いを強くした次第だつた。



菅井幸子

# 行事予定

平成二十一年八月～十二月

聖和学園陸上部合宿

八月二～四日

お盆行各家庭巡回

八月十二～十六日

大施食会（大施餓鬼会）

八月十七日午前十時半～

第二回敬老の集い

九月十九日十時半～

※同時にボランティアのサポート

スタッフも募集しています。

入彼岸 九月二十日

十一面觀音永代供養（一時半～）

愛々動物供養（二時～）

第十七回ちえぶくろ寺子屋寄席

十月十七日午後六時半～

（木戸錢は五百円）



桂文生師匠講演

仏の教えを聞く会  
十二月六日午後六時半～  
除夜の鐘

塔婆・お札等のお焚き上げ供養

十二月三十一日午後十一時～  
除夜の鐘を撞いて一年の煩惱

を祓い、年越蕎麦（手打）を食べな

がら新年を迎えませんか。

改歳元日初祈祷

一月一日 零時～

「行事予定の日時は都合により

変更の場合もあります」

## 新役員紹介

阿部敏彦 鹿妻地区



## 会の紹介

「目指せ、千体地蔵」

石彫会（せきちょうかい）

清風講演会

「教育についての私の遺言」

無着成恭先生

十一月八日午後一時半～

講師は以前ラジオ放送やまび

こ学校に出演、仏教に根ざした教

育論者

会場未定

昭和五十三年六月の宮城県沖  
地震を記憶していますか。あの  
時、石巻地方で多くの岩倉や塀が  
倒壊しました。通称野蒜石と言わ  
れる石です。その倒壊した野蒜石  
を何かに再利用するため、お寺で  
保管しておりました。



7月20日子供達を  
含めて30名が参加

なお、次回は十月二十五日（日曜日）九時から開催予定です。

この石を使って、小さな地蔵様  
を皆で彫ろうという声が上がり、  
坐禅会の会員でもある彫刻家の  
高家氏の指導を受けながら、タガ  
ネを使つて始めました。ちよつと  
首をかしげたお地蔵様やうつむ  
いた感じのお地蔵様、造る人の個  
性が出たようです。子供達も上手  
に彫っていました。皆でコツコ  
ツ、千体地蔵奉納を目指してこれ  
からも続けて参ります。参加は自  
由ですので、詳細はお寺にお問い合わせ下さい。



5月6日20名が参加

今後の記念行事については護  
持会役員全員を含めた実行委員  
会で鋭意計画していくことになり  
ましたが、檀家のご理解を頂き  
たく、寺報「なむ」でお知らせし  
てまいります。

後藤和男

## 編集後記

寺報誌名の「なむ」は仏の教え  
を聞く会事務局の菅井幸子さん  
の筆書きを採用させていただき  
ました。また菅井さんには広報部  
もお願いしました。

平成二十一年度役員総会に於  
いて二年後に迫った洞源院開創  
九五〇年記念行事について準備  
委員会から役員総会に提案し、承  
認していただきました。

## 寺報紙名筆書募集

三頁に「記念事業についての紹  
介とお願い」が掲載されてあります  
が、実施にあたって、お手伝い  
して頂ける方を募集致しております。

洞源院開創九五〇年記念事業  
委員会（洞源院950）